

09.5.1 010

沖永良部島の子育て環境

—数量データを全国発信へ

片桐 資津子

沖永良部島は合計特殊出生率が高い。子どもを産み育てやすい環境が整っている。家族や親戚は当然だが、隣近所とのふれあいも多い。若い夫婦は安心して出産や子育てができる。高齢者世代も子育てに協力的だ。元気で活動的な高齢者も地域で子育てを支えている。

このような支えあいは「ソーシャル・キャピタル」が豊かであることを示している。ソーシャル・キャピタルとは一般に「社会関係資本」と訳される。ただし、水道や

道路のようなハードとしてのインフラをあらわす社会資本と誤解されるのを避けるため、カタカナで表記する。経済学で使われる金融資本や物的資本に匹敵するほど重要である。そこで、あえて対等に社会関係「資本」と表現する。地域のさまざまな活動に自発的に参加して、人と人が緊密に協力し合う。たがいに信

豊かな「ソーシャル・キャピタル」を調査中

頼関係」を保ち、「規範」を守り、豊かな「ネットワーク」を持っている。なぜ沖永良部島には子どもを産み育てやすい環境が整っているのか。おそらく「ソーシャル・キャピタル」が豊富だからだ。この仮説を実証するため、知名町役場の協力を得て、現在「少子高齢化」とまちづくりに関する調査を実施している。

調査対象としての母集団は知名町町民で、対象年齢は二十歳以上とし、対象者は「層化二段抽出」という標本抽出方法で選んだ。一段目で知名町の二十一集落のうち、六つを無作為に決め、二段目で各集落の人を抽出した。抽出の基準は「住民基本台帳から、瀬利寛百十三人、芦清良五十九人、正名五十四人、余多三十四人、新城二十五人、そして赤嶺十五人、合計三百人を無作為に抽出した。調査期間は二〇〇九年四月一日から六月三十日まで、三カ月間である。事前に調査協力をお願いの

はがきを対象者全員に送付している。アンケートの内容は町民のライフスタイルや価値観など多岐にわたる。アンケートの質問百三十五項目のうち一部を紹介したい。ソーシャル・キャピタルの三本柱にそって挙げると、第一に「信頼関係」については「家族は絶対に信用できるか」「血筋をたどると全所親せきか」「親しい近所の家の冷蔵庫を開けることに抵抗感があるか」

「知名町を総合的に見た場合住みやすいか」「沖永良部島という地域に愛着を感じるか」。第二に「規範」については「ごみ出しなどでマナーが悪い人には注意するか」「車の運転中、歩行者と目があったか」「知人の子どものしることもあるか」。第三に「ネットワーク」については「日ごろから親しくしている友人の数は何人か」とにかく集まる機会が多いか」。かなりの踏み込み

だ内容になっている。さらに本アンケート調査は、国勢調査や自治体が行うアンケート調査とは異なる。調査員が対象者に面会し、質問を一問ずつ読み上げて回答してもらおう。記入もれをなくして正確に答えてもらうためだ。

実際に調査員として汗を流しているのは六つの集落の「民生・児童委員」七人だ。民生委員の皆さんにはアンケート票を持ってすでに対象者宅を訪ねてもらっている。しかし、苦勞もあるようだ。

たん島言葉で質問を「翻訳」して伝え、島言葉で答えを聞き、さらに島言葉から標準語に直してアンケート票に記入したので、二〇一〇年三月には統計的分析を終わらせる予定だ。今後、できれば和泊町や他の島でも実施してみたい。

(鹿児島大学法文学部 准教授)



調査実施についての説明を受ける民生委員(左)